

松川村の顔 平林明人村長

松川村村長の平林明人さんは、平成十六年三月七日から「松川村をすっきりさせる。」という志のもとに村長の職を務めてきた。さらに「松川村に働く場所をつくりたい」と思い、色々な職場をつくり、松川村を発展させてきた。

平林村長は、村長という立場で困ることはあるかと聞くと「困ることはない。だけど孤独だし、すべての責任は自分が背負っていかねばならないから苦しい。だけどそれがこの村長という立場の面白いところでもあるし、やりがいを感じる部分だね」と語った。

松川村のよいところはどこか？と聞くと、「まず空気がよくて自然が素晴らしい。あと、田園風景もそうだし、災害もない。それが松川村のよいところの一部だと思う」と語った。

次に、一番尊敬する人は？という質問には、「織田信長や、豊臣秀吉も好きだけれど、一番尊敬する人というのは、お袋かな。世間のルールを教えてくれたのは学校の先生だったけれど、人としての生きる道を開いて導いてくれたのはお袋だったから。」と語り、誇らしい顔をして話した。

将来、この松川村を引っ張っていく人たちに願うことは何ですか？と最後に聞く。「働く場所をもっと増やしていくことも大事だけど、



先日、3期目の当選を果たした平林明人村長（69）

松川のプライムエイブル

鼠穴地区在住の清水香理さん（39）は、二〇〇六年に、家の敷地内の工房でケーキなどのお菓子作りを始めた。今では個人の注文や、卸しに対応している。

長野県塩尻市で生まれ、中学生の頃から自分のお店をもちたいと思っていた。二十歳の時にフラン

スへ、お菓子作りを学ぶために留学。帰国後は、東京や埼玉のレストランなどで働いた。結婚を期に長野県に戻り、十年前から松川村に住んでいる。

しばらく、お菓子作りからは遠ざかっていたが二〇〇六年に工房を建て、機材などは中古品であつめ、その年からお菓子作りを始めた。長年の夢を叶えた。宣伝は一切してないが、口コミでひろまり、クリスマスなどには、たくさん注文がくるという。

中学生の頃から夢見たケーキ屋は、思ったより力仕事が多く、長時間労働でほとんど寝られない日もある。だが、自分

のつくったケーキを食べてくれた人が喜んでくれたり、また注文してくれたりすると、自分の仕事にやりがいを感じるという。

「これからも、松川村という空気がおいしく、静かな環境でこのままお店を続けていきたい」と話した。



清水さんの自宅の敷地内にある工房

木と人々と共に働く

二人組工作所を訪ねると、工作所には木工家具職人平尾信悟さん作品がある。その一つ一つに平尾さんの職人としての意気込み、願いが込められているようだ。

「以前は建築系の職について、現場を管理する仕事を担っていたんですが、自分で物を作る仕事をしたいと思い、今の仕事に移ったんです」と平尾さん。家具はもちろん、店などに置かれる大型の棚

などを作っている。この工作所で作られるものは設計事務所や工務店からの依頼で作ったものやオーダーで頼まれて作るものなどがある。

「元々、地域の家具屋として働きたかったんです。例えば、たんすが開かないとかって時にちょっと

この願いは、製作所の名前にも表れている「二人組工作所」という名前には、「作る側と使ってくれる側で合わせて二人お互いに良い物を通して満足できればいい」という願いが込められている。

平尾さんは、この製作所以外の仕事はしていない。その点でも平尾さんのこの仕事に対する熱意と願いが伝わってくるように感じられる。

パン作りについて聞いてみると、国産の小麦粉を使っているのは、「やさしくてやわらかいパン、みんなが好きなようなパン」だそう。

店名は「井口さんのパン屋さん」だから「いぐパン」。井口さんご夫婦の温かさが感じられるパンを求めて、村内外から多くの人が訪れている。

高齢者のために

松川村社会福祉協議会の榎澤正明さん（49）に松川村独自の福祉活動について話を聞いた。

お出かけしたいのに車がないなど交通手段で困り、遠くまで出かけることができないという高齢者のために、松川村には、松川村協会は村内のみ利用できる「りんりん号」という乗り合い福祉バスを運行している。停留所はなく、自宅や各店舗に送迎をする。

また、松川村協会は人とのつながりを重視している。榎澤さんは、「どこも近所づきあいが減ってきているので、その近所のつながりを戻していきたい」と語った。

ボフ畑というボランティア畑は、畑をつくりたいと思っっている高齢者の方などが季節ごとにたくさん種類の作物を育てて

いる。収穫した作物はゆうあい館で用意されるご飯や10月に行われるゆうあい祭などで販売する。

料理が苦手または大変という高齢者の方には？週間に1度ではあるが、「まめまめ弁当」というお弁当がおすすめ。一つ300円ですごくおいしく、栄養がたよらないよう工夫されたお弁当だ。

他にもたくさん松川村独自のボランティア活動を通して人とのつながりや、ふれあいを大切に、高齢者を支援してきた。これからの松川村協会はますます期待が高まっている。

自分の仕事について熱く語る榎澤正明さん（49）



榎澤正明さん（49）

天然酵母のパン屋さん

神戸（こう）さん二人で、温かく迎えて下さった。井口さんは関西出身（まさきはる）さんは、一昨年の12月に手作りパンの店「いぐパン」をオープンした。取材に行った日は定休日だったが、奥

さんと二人で、温かく迎えて下さった。井口さんは関西出身。理由は、大町市に八年前移住してきたことがきっかけだそう。松川村には農業体験などで訪れる機会がたびたびあったという。「景色がとて良く、村の人が親切にしてくださったので、住みやすそうだった」と井口さん。

パン作りについて聞いてみると、国産の小麦粉を使っているのは、「やさしくてやわらかいパン、みんなが好きなようなパン」だそう。

店名は「井口さんのパン屋さん」だから「いぐパン」。井口さんご夫婦の温かさが感じられるパンを求めて、村内外から多くの人が訪れている。

家具作りをする平尾信悟さん



家具作りをする平尾信悟さん



山麓線沿いにある「いぐパン」